

第 1 回

益田市総合教育会議会議録

日 時 平成28年12月21日（水）15：00～

場 所 市役所第2会議室

益 田 市

平成２８年度 第１回 益田市総合教育会議

招集年月日 平成２８年１２月２１日（水）１５時００分～

招 集 場 所 市役所第２会議室

議 事 日 程

１ 挨拶

２ 議事録署名者の指名

３ 議事

- （１）益田版教育の魅力化プラン（益田市未来を担うひとづくり計画）全体構想（案）について
- （２）益田市いじめ防止基本方針（案）について

４ その他

出席者

総合教育会議	益田市長	山村浩章
教育委員	川田千修	
教育委員	永上芳秋	
教育委員	水辺隆枝	
教育委員	中野純	

事務局職員	教育総務課長	島田博
学校教育課長	澤江幸実	
学校教育課参事	城市博明	
社会教育課長	大畑伸幸	
社会教育課長補佐	伊藤功二	
社会教育課派遣社会教育主事	澤江健	
政策企画局人口拡大課長補佐	志田原涉	
教育総務課長補佐	山本勝利	
教育総務課主事	岩本純平	

傍聴者 3名

島田課長 それではご案内の時間となりましたので、今年度第1回目の益田市総合教育会議を開きたいと思います。まず初めに市長からご挨拶頂きたいと思います。

1 挨拶

山本市長 皆さんこんにちは。教育委員会の皆様には日頃から益田市の教育の施策の推進にあたりまして、何かとご尽力いただいておりますことを改めてお礼を申し上げます。また、今日は定例教育委員会も開催されたと伺っておりますけども、昨年度から始まりました益田市総合教育会議もこの機会に開催させていただきました。なかなかたびたびにというわけにはいきませんが、教育委員会と市長部局で教育施策の推進について協議調整して、円滑に進めていくという趣旨から今回開催させていただきました。

 今回議事としては、お手元の次第にありますように2点用意しています。益田市が進めていく「ひとづくり」について、そしていじめ防止基本方針、これは昨年度の総合教育会議でいじめについてしっかりと対策を講じておこうということになりましたけども、そうして完成になりましたので、ご報告申し上げて、ご意見を承りたいと思っております。今日は年末の大変忙しいところにこうして時間を作っていただきましたことをお礼を申し上げまして、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

島田課長 ありがとうございます。そういたしますと、今までの総合教育会議と同じように、進行につきましては市長に進めていただくということでお願いいたします。

2 議事録署名者の指名

山本市長 それでは早速議事を進行させていただきます。まず議事録署名者の指名をいたします。議事録署名については、水上委員、渡辺委員、よろしくお願いいたします。

3 議事

(1) 益田版教育の魅力化プラン（益田市未来を担うひとづくり計画）全体構想（案）について

山本市長 そして議事に入ります。議事の第1番目としまして、益田版教育の魅力化プラン、益田市未来を担うひとづくり計画全体構想の案が出来ました。これについて担当の社会教育課から説明を頂きまして、そしてご意見を頂きたいと思います。それではこの件について社会教育課よりお願いします。

大畑課長 まずお手元の資料にあります、一番下の所に、益田市は総合戦力に基づきまして、今年度からひとづくり協働構想ということで、「ひとづくり」をしっかり進めていくということを施策のベースにしているということです。市としてまずどんな体制で進めていくかということを経済局の人口拡大課の志田原のほうから説明をしたいと思います。

志田原補佐 それでは私のほうから益田市ひとづくり協働構想について、スクリーンで説明をさせていただきます。

《益田市ひとづくり協働構想の概要についてスライドにより説明》

大畑課長 それを受けまして、教育委員会が主に関わるであろうところが「未来の担い手づくり」というところで、この部分が今全体構想図でお示しをさせていただきました。柱は子どもたちを中心に保育園・幼稚園から高校生世代までをしっかりと益田のいろんな「ひと」たちに具体的に対話を通して出会わせながら、益田で生きるということの素晴らしさを子ども自身が感じるということをしかりと進めていきたいということが柱になっています。それがお配りした資料の真ん中にある黄色の矢印の「ロールモデルとの出会い」ということで、具体的に子どもたちにいかに出会わせるかというプログラムを各学校や幼稚園、関係機関、又は民間と一緒に作っているということです。

青い丸が付いているものは、教育委員会だけでなくこの趣旨に賛同してやっていただける民間の方を含めながら、具体的に今取り組まれているプログラムです。特に右下のものは、各機関、市民団体、組織等がやっておられるものです。それから公民館自体がそういう取組を始めていまして、高津公民館ですが、そういうやっている所も生まれ始めて、その輪が広がっているということです。こういう形で主にこういう取組を中心に据えながら、ほかの教育委員会に関する事業も整理しながら進めていきたいと考えています。

ふるさと教育もキャリア教育と分離するのではなくて、一体的に進めていきたいということで、左側の図がそういう意味で、ふるさとのことをしっかりと知ることが子どもたちが将来益田についての愛着を持ったり誇りを持ったりというベースになるであろうということ、それから益田でしっかりと働いて、又は生活している方々と出会いながら、益田で生きるということをどんどん年齢が上がるに従ってしっかりと味わってもらおうということで、キャリア教育ということがイメージとして広がっていくというふうな感じでこの図を作っています。

右側の所では、各民間や部局と連携しているいろんな場面や機械がございます。例えば、放課後児童クラブを所管しています子育て支援課と連携しながら、その場で、特に小学校の低学年が中心です。ですから、しっかりと益田のいろんな方たちと出会ったり、いろんな体験活動をす

るということを、今回アクションプランを策定しまして、具体的に各放課後児童クラブでも、ただ子どもが安心して怪我せず過ごすのではなく、多様な地域の方たちと一緒にあって過ごす体験プログラムを必ず入れましょうという具体的なアクションプランを作ったりしながら、この未来の人づくり計画に向かっていろんな所が一緒になってやれるように今整理をし始め、動き始めたところです。今年度、来年度、再来年度で全ての保幼小中高で具体的なプログラムができるような輪を広げていくというふうに動いているところです。今年度、更に来年度広がるように今準備を進めているというところでございます。

県が実は来年度から魅力化というキーワードで、将来的には島根県で教育を受けさせたいから移住するんだとか、教育を島根県で担いたいから移住するんだという人を呼んできたいという柱として、島根県が教育の魅力化というキーワードで事業を大きく展開をされます。県との協議の中で、益田の子の未来の担い手の取組はすなわち益田市の魅力ある教育の取組であるというふうに今モデル的に認識していただいているところですので、県の事業もしっかり活用しながら来年度この未来の担い手づくりに関する各種事業をしっかり加速度的に進めていきたいなというふうに考えているところです。

山本市長 それでは益田市未来を担うひとづくり計画について、その前提となる総合戦略あるいはひとづくり協働構想、そしてこの計画について説明をさせていただきました。是非委員の皆様から感想なり、ご質問なり、ご意見なり、ご自由に頂ければと思います。いかがでしょうか。

渡辺委員 こうした計画というのを前向きに捉えておられてうれしいんですけども、現状というものを十分に把握しながら、その現状をやっぱり良くしていく、向上させていくという部分がなければいけないというふうに思うんです。

私も以前社会教育の仕事をさせていただいた時に、匹見町では最大の社会教育団体は婦人会でした。次は老人会でした。それが今婦人会がほとんど消滅状態で、随分婦人会というのは活発な活動をいたしまして、匹見でも福祉施設を誘致し、あるいは作って行って、自分たちの老後でも老身を見ていくっていうことを楽にしていきたいというそうした思いというのは、ヨーロッパで学習してから匹見に帰ってそうしたことを議会に、あるいは行政に要請をしながら進められて、今の福祉施設は建てられたものなんですけれども、それだけにやっぱり社会教育というのはものすごく大きな力を持っているんです。そこの足元がどんどんグラグラして、実際は老人クラブが今最大の社会教育団体とはいいながら、社会教育のいろんな学級講座というのはありませんから、だから社会教育団体とは言えないような状態なんですけれども、それでもその老人クラブが

消滅しかかっているという状況があります。というのは、そうした中にはやっぱり従来やってきた高齢者学級とかっていうのがなくなってきて、老人クラブの一つの活動の中にそうした高齢者学級なんかも入っていた、だけれどもそうしたものがなくなって、今ではボランティア活動が主流になってきているという状態になっていて、高齢者も老人クラブに入ろうとしなくなってきたという状況があるんです。

私はこうした立派な構想がある中においては、あるものをもっと膨らませて、あるいは充実させて人々が社会教育に芽を出し、あるいは地域の人材育成にも協力していく、あるいは自分が持っている知識・技術を皆さんに教えてあげる、そういうような社会というのを私はこれからの益田市を担っていく大きな力になるというふうなことをつい思ってしまうんですけども、その辺りというのはどうなのでしょう。

大畑課長

今おっしゃったとおり地域の担い手のところで今自治組織というキーワードで進めています。その中で今公民館という位置づけをもう少しきちんとしていこうというふうな流れになって今、実は昨日2時間、公民館長とかなり議論をさせていただきまして、やはり地域の中でしっかり人がまずつながるということ、それからその中でしっかり学んでいながら、支え合いの関係性をしっかりつくっていくといけないというところについては各館長もご理解いただき、前向きな発言をいただきました。

今渡辺委員さんがおっしゃったとおり、ベースとなる地域では今つながりが薄まっているということが大きな危機であるんだろうと思っていますので、地域の担い手づくりで、地域でやるんだというだけでなく、その中でおられる方自身が、例えば未来の担い手の子どもたちに関わっていただくということもありますし、いや、地域の中で産業をつくっていこうと、産業の担い手も生まれてくる、この3つが別々じゃなくてつながっているんだというのが私たちが今事務局同士話をしているところですので、今おっしゃったとおりベースとなるところが、形が大きく変わっているところもあります、でも根源的なところは多様なやりたい自分の価値を認められる社会になってくる中において、非常に支援だとか今までの援護が薄くなっているのが現実です。ですから、新たになぎ直すということを今やり始めたということです。

それからうれしいことは先ほどもご説明しましたように、地域において公民館を中心としてもっと人がつながるようなこともしないといけないというところにやっとながら目が行いたと思っておりますので、自治組織の支えとなるところをやりながら、今委員さんがおっしゃったように地域の中の高齢者のこともしっかり関わる基盤づくりを同時に進めていきたいと思っております。

山本市長

従来一見において社会教育の基盤だった婦人会・老人会が、人が減る

ことによって弱体化というか、そういうふうなことになるのであれば、それをもう一回再構築して社会教育の主体となって浮かび上がっていただくのか、あるいは、新たに公民館なり地域自治組織なりという枠組みの中で活動していただくのか、それは地域地域でやっぱり状況も違うと思いますので、考えていかないといけないのかなと思います。地域のそういった取組について地域も頑張っていただくとともに、教育委員会なり行政も一緒に関わっていくということは大切なかなと思います。ほかにはいかがでしょうか。

水上委員

人が育つというのは随分と今から時間がかかると思うんです。今ここで作り上げたこのことが来年芽が出るということは全然ないので、今からそこはじっとみんなで待ち続けられないといけない時間がすごくあると思うんです。だけれども、ここでこうやって、一応これから進む道が見えたというのは、私はいろんなことが、ここはこういうふうなところだ、ここはこういう場面にここが入るんだというのはなんとなくすっきりとしたというか、自分が普段生活していることとか活動していることがこういう場面に当てはまっているんだとは思いますが、一般の方々もそのところの考えというか、こういうものを目にしてそこに当てはまるという、だから自分は公民館に行って活動をしないといけないとか、こういった子どもと関わるボランティアをしたいとか、今言った地域でみんなで集まって何かをしないといけないというところの考えに一人でも多くの方に行かせてあげるとするか、そこに向くようにまた手法を変えていく、ここまでのところはすごく分かりやすくてできたと思うので、そこに向けていくのをこれから、これを作るよりもうんと時間がかかると思うんですけども、地道にみんなで取り組む必要があるかなと思います。

大畑課長

益田市ホームページ以外にもそういうまずは益田だけでなく広く情報発信できるようなサイトを作って、そこに益田のいろんな益田の情報を集めてそれがまたいろんなところで活用できるようなものを作る必要があるだろうと今構想を練っているところですので、もう一つは、公民館という拠点を使ってもう少しこれがいろんな方に対してアクションできるように働きかけをしたいと思います。

もう一点、時間的なことで言うと、かなり長くやり続けることが必要であるというのが一点あるんですが、実は今私たちは中学生・高校生にかなり働きかけをしています。この3年間中学校には地域貢献をしっかりとやってほしいとお願いをし続けましたら、例えば東陽中学校では部活動単位で地域のボランティアに参加するようになっています。

澤江社教主事

中学生はなかなか部活が忙しくて参加ができないということが初めはあったんですけども、昨年末に高齢者の方を訪問するというのが希望がほとんどなくて、3件くらいしかありませんでした。この年末は部活単

位では是非参加をしたいということで、65名参加があつて、どこに振り分けるのか大変だというくらい申込みがありました。先日のええもん市という地区の市場が開催されたんですが、そこでもボランティアが4名参加して、是非ここで自分たちが作ったおやつを販売してほしいという申出もありまして、どんどん中学生の意欲というところも高まってきているということが地域の中でも生まれてきています。そういうことが今いろんなところに広がっているという実感がすごくあるところです。

大畑課長

かなり学校の先生方の理解も進んで、そういうところにしっかり出そうという意識があつたので、大きく背中押しができています。高校も今益田高校を始めいろんなところでそういう動きが出てきました。

それから近い所ではないんですが、宮崎なんかでも高校生が地域の解決課題を考えて具体的なアクションを起こしたら、その卒業生が仲間4人がそれぞれ自分は観光、自分は商売を勉強して、「どうするの」と聞いたら、「いずれ地元に戻って4人で起業するんです。そのためにそれぞれの得意分野を学んでいるんです」と言われて、要するに高校生が地域の課題に自ら解決するところまでアクションを起こして、地元の大人たちと一生懸命やると、帰ってきてやりたいんだという具体的な姿を見せてきています。

長い時間軸でやり続けるんですけど、中学生・高校生をしっかり掘り起こすことで、案外4年後、5年後にまたリアクションとしてすぐに帰ってくるという姿も現れるのかなと思っていますので、やり続けながら今まで手薄になっていた中学生・高校生についてのアクションをしっかりやっていきたいなと、そのためには一緒になって本気でやっていただく大人の方、もちろん高齢者も含めて、高校生と一緒にやってみようという方をしっかり掘り起こしていかないといけないなということが、実は社会教育課として来年度の大きな課題になっていますので、ここで高齢者の方々の力を発揮していただければ高校生にとっては、是非この町に帰りたいという思いが更なる強くなるのかなと、非常に高校生世代に刺激を与えて、しっかり主体者として活動させるということとはとても大事だというふうに思っています。

これを頑張るというのは全国的にも先駆けのほうだと思いますので、なかなか先例がないんですけど頑張って動いているところです。先ほどの宮崎の高校は今度のフォーラムでは事例発表してもらおうと思っていますので、また是非本人の言葉を聞いていただくと、結構私も感動しましたので、そういうものを益田の中でつくっていくことが案外近い所でもリアクションがあるかなという期待を、まだ途中ですのでどこまでかは分かりませんが、期待をしているというのが今のところです。

山本市長

今お話を伺っていて思ったのは、確かにひとづくりというのは長期の
スパンで進めないといけないところがあって、速成栽培が期待できない
のが正にひとづくりだと思うんですけども、一方で子どもたちには意識
の変化が確実に表れているということで、意識が変わったというのが本
当に大きな成果だと思います。

それともう一つ思うのは、よく「まちづくりはひとづくり」と言いま
すけども、これはまちづくりをするためにはそれを担う人をつくらない
といけないという意味と、ひとづくりに関わることで自体が町に対する思
いを深めていくというか、社会教育という分野では特に担い手というの
はやっぱり地域の方々ですから、社会教育をしないといけないという地
域の方の目覚めがあれば、それはその町を思うということにつながるの
で、ひとづくりの輪が広がっていくということは町自体が活性化して
いくというか、人々の意識が大きく変わっていくことになるのかなと思
いますので、そういう意味ではひとづくりそのものは長期であっても短
期的に変わってくることも十分期待できるんじゃないかなというふうに
今思ったところです。

永田委員

この構想案はとても分かりやすく、良いかなと思っています。それ
から今言われたように、子どもたちは明らかに変わっています。ここ1
0年前の子どもと今の子どもを比べるとふるさとのことをよく知っている
子が増えていると思います。それぞれの地域でそれぞれの方が、老人
会を始め公民館を中心に子どもたちに関わっている成果かなと思うん
ですが、この前も教育委員会だよりに書かせていただいたんですが、中西
の子どもに「中西は何が素晴らしいか」と聞いたら、大道山とか中河内
の棚田とかってというような答えがありましたし、それぞれの地域で、昔
はそういう答えは出てこなかったと思うんですけど、今の子はそういう
ふうに地域を愛するとか、地域の中で自分は生きているんだなとい
うことを感じていると思いますし、秦佐八郎のことに関しても10年前
の子どもは「秦佐八郎って何かな」と益田市内の子どもたちの1割が知
っていればいいかなというような感覚で、今は8割から9割の子が秦佐
八郎がどんな人で、どこに住んでいて、どんなことをしたかっていうこ
とを知っているというのは、やはり今までの地道な取組が成果として子
どもたちの中に息づいているのかなということを最近つくづく感じてい
ます。

これはやっぱり本当に学校と教育委員会と地域の人助け合いによっ
て、協力によって子どもたちが育っているんだなということを感じます
し、それから中学校のカタリ場を見せていただいたんですけど、やっぱ
り子どもたちは実際に何があるかっていうことを知らない、私なんかも
中学校の時に社会の中でどんな仕事があって、どんなことをして、誰が

どう働いているかということを知らずして、勉強してなんとなくこうなったというようなレールの上に乗って人生が来てしまったなということを考えるんですが、最近の若い人は自分で企業を興したりとか、それからこの前の青松さんなんかでも打たれ打たれ、失敗して失敗して、積み重ねて成功した、あの人がまたそれでも失敗するかもしれないけどそういう経験があったらまた新しい企業を興していくんだろうと思うんですけど、やっぱり子どもたちは何が今この社会で必要で、どうすればどうなるかということを知らずして、勉強だけするんじゃないくて、カタリ場でもいろんな人が話をする事で、ああいう生き方があるんだ、ああすればああなるんだとか、今ネットとか情報を通して発信したりとかこういうことをしたりとかっていうことを子どもたちは学びながら、自分で自分の生き方を探せるようになったかなと、今までは1つのレールで、親が歩んだ生き方をまたその次に継いでいくっていうふうな人が多かったと思うんですけど、今はだんだんそういうふうな刺激を与えていただくことによって子どもたちが新しい発想で、先ほどの宮崎の話のように、子どもたちがいろんなことを知ることによって、ああいう生き方があるんだ、こうすることができるんだっていうことを感じられる、そういうふうなとっかかりを社会教育課を中心に取組んでおられるというのは本当にすごいことだと思いますし、これが実を結ばばいいなと思っています。

私も匹見にいた時に、東京から大学生が来て、匹見の中でなんとか匹見を盛り上げようということで、大学生が中学生にいろんな話をして聞かせて、匹見はとても素晴らしいと言うんですよ。私なんかは匹見に帰ってきたら働く所がないからなかなか生活できないだろうというふうな一般的な考え方なんですけど、その大学生は匹見は素晴らしいと、自然もあるし、それから働く力もあると言われるんです。年を取った方でも元気な人がいっぱいいるから労力はあると、それから土地も安いと、今はパソコンが使えるから全国に発信することはいくらでもできるから匹見で企業を興さないと、とかっていうことを言われて、そんな考え方もあるんだというようなことを感じたんですけど、そういう意味でも子どもたちに刺激を与えながら何もしなければ動けませんけれども、少しずつ子どもに刺激を与えることによって子どもたちが段々と自分の考えによって仕事をしていけるということは本当に素晴らしいですし、それから益田の素晴らしいところもいっぱいあると思いますので、その素晴らしさによって、仮に出るかもしれないけどまた益田の良さを思いながら帰ってくるとか、やっぱり幼少期の体験は一生もので、それこそ吉賀町出身の森英恵さんなんかは幼少期にチョウを追っかけたり、トンボを追っかけたり、魚を捕ったりして遊んで、やっぱり彼女の心に残ったのは

吉賀町のチョウだったということで、やっぱり小さい時の体験というのは一生ものなので、是非公民館を中心に、地域の方も一緒に、学校とも協力して子どもたちの成長を手助けできるような体制ができるといいかなと思います。

山本市長 そうしますとこの益田市版の教育の魅力化プラン、ひとづくり計画について、ご意見ですとか、評価ですとか、問題提起も頂きました。そのことを踏まえて今後この方針に基づいて進めていきたいと思います。

(2) 益田市いじめ防止基本方針（案）について

山本市長 それでは次の議題に移らせていただきます。2番目として、益田市いじめ防止基本方針（案）についてでございます。これについて、教育改革推進室のほうから説明をお願いします。

城市参事 お手元に資料をお配りしております。昨年度の総合教育会議のほうで益田市のいじめ防止基本方針を策定するというお話が出たということですが、それを基にここまでたどり着いたところでございます。経緯としては、平成25年10月のいじめ防止対策推進法の成立、同じく国のいじめ防止基本方針の成立を受けて、益田市でも本年3月に市の条例、益田市いじめ問題対策連絡協議会等設置条例を制定した上で、本いじめ防止基本方針について策定に向けて今作業を進めているところです。これまでも報告してきておりますが、いじめ問題対策連絡協議会を通じまして、この策定作業をしているところですが、11月25日から12月26日まで、現在パブリックコメントを募集しているところです。なかなかパブリックコメントは無いのではないかとということで、市役所の本庁や美都・匹見領総合支所はもちろん、各地区振興センターのほうでもパブリックコメントの受け付けをしてもらっておりますし、市のホームページのほうでも公表しております。告知放送も活用して、市民の皆さんに広くパブリックコメントを募集していますということを伝えさせていただきました。

その結果1つ出てきまして、簡単に言いますと、その方のコメントには、いじめの根底には2つあるんじゃないかと、学力の不振、これがいじめにつながっていることが考えられると、もう一つは、貧困問題でした。この2つに対して、どう市として対応していくかというところも是非盛り込んでみてほしいというようなコメントがございました。このコメントへの回答については、先ほど言いました協議会を通じまして検討していこうと思いますし、いずれそのコメントへのお返しをしたいと思います。そういった手続を経ながら、この3月に基本方針を策定していきたいと考えております。

現在お手元にごございます基本方針の案は、全6章から成り立っており

ます。基本的にこの6つの章に益田市の基本的な考え方、それから施策や対処のあり方、そのための組織、それから重大事態への対応、さらにはこの基本方針の評価と見直しということを大きく扱っております。現在ちょうど文部科学省の有識者会議において、国の基本方針における重大事態の定義が大変曖昧であるというようなことが議論されています。随分議論が深まって、形になりつつあるようですけれども、この年明けにも国のほうからこのような定義付けあるいは捉えをしていくというような方向性が見えてくると思いますので、それを受けてまたこの基本方針の見直し等に生かしていけたらというふうに考えています。

それから以前定例教育委員会のほうでも報告させていただいた時に、委員の皆様から意見があったんですが、特にいじめ防止の方策あるいはいじめへの対処のあり方といった具体的なモデルとか事例も考えていったらどうかというご意見もありましたので、これも今後検討していこうというところです。

山本市長

今説明がございましたけれども、このいじめ防止基本方針について、ご質問・ご意見ございましたらお願いします。先ほどの説明に補足をしますと、第5章に重大事態への対処というのがあります。重大事態があったと判断した場合に、どういう対処をするか定められているんですけども、肝心の「重大事態」というふうに認定することがおろそかになっていると、せっかくこういう取決めがあってもそれが有効に働かないということになります。

現実に横浜市でいわゆる震災いじめの事案がありましたけれども、あれはそういった事案があったことは把握しながら重大事態とは捉えていなかったわけです。したがって今文部科学省もそこをやはり重要視しまして、重大事態というものの定義の見直しをしようという作業が進められているというところです。まずはその定義がしっかりなされているかというところですけども、それを受けて益田市としてもその定義をしっかり把握して漏れが無いように、対策をとる一人一人の意識なり、あるいは広く学校とか地域とか関係者が深く理解・認識するということが大切だと思っております。

水上委員

重大という言葉というか、誰も判断はできないと思うんですよ。その子にとっての重大さというのは他人が見て、例えば大金を取られたから重大だとか、命の危険があるから重大だとかじゃなくて、周りには分からずにその子の気持ちの中に大きく突き刺すものがあつたら、それはそれでその子にとっては命うんぬんじゃなくて本当に重大なことなので、ここの定義をするというのは本当に慎重にしないといけないですし、果たしてこの紙面上に定義付けができるものなのかなというのはすごく思います。ただ、どの事例に対してもそこに関わった人たちは本当にこれ

くらいのことというふうに思うんじゃないくて、真剣に取り組んでいけないといけないなと思うんですけど、確かに重大事案というのがどういうふうな表現をするのかがすごく難しいなというのを感じます。

山本市長 7ページに重大事態の定義が案として4つありますよね。これは基本的に国のガイドラインに沿ったものなんですか。

城市参事 そうです。

山本市長 そうすると、例えば横浜の事件について言うと、金品等に重大な被害を被った場合、確かそういうことがありましたよね。本当はそれを把握していれば重大事態になっていてもおかしくなかったんですけども、そこを軽く考えてしまったというか、子どもがお金に余裕があるから友達にあげたんだろうくらいの判断を、多分あえて重大事態にならないように軽く考えようというバイアスがかかったんじゃないかなと推察するんですけども、やっぱりこういういじめというのはその子にとっては本当にいわゆる重大事態という定義とは違って正に重大な問題ですから、なるべく重く捉えてあげようという姿勢でないと、先ほど水上委員さんがおっしゃったように、定義が決まってもその定義にならないように解釈しようということになってしまったら意味がないわけですよね。だからそこは定義ともう一つは運用というか、取扱いをしっかりとやるということも大事なんだろうと思います。

渡辺委員 こうしたいじめの問題に対してもやっぱり早期発見とか対応とかっていうことがこうして載せてあるんですけど、実際にいじめが起きないような学校をつくっていくってことがやっぱり大事だというふうに思うんです。市長さんが以前から言っておられますように、学校が楽しくなる要件の中に勉強ができる、ある程度みんなに付いていけるだけの学力を持っている、あるいは運動もみんなと同じように自信を持って対応できる、あるいは仲の良い友達がいるとか、学校に行けば楽しい時間が過ごせる、信頼や尊敬ができる先生方がいるというそうした学校づくりというのが第一義的に必要じゃないかなと思うんです。

小さい学校では、大きな学校と比べたときにそれぞれの子どもにそんなにいじめの問題というのは起こりにくいというのは、ある程度みんながよく知っているし、みんなが仲の良い友達というような条件があるからだと思うんです。だからやっぱり学校づくりの基本というのは、子どもたちが学校が楽しくなるというようなことを基本とすることが私は大事じゃないかなと思うんです。こういういろんなことに縛られなくても、きちんとそうしたことが自分自身に分かっているというような社会とか学校になってほしいなと思います。

山本市長 いじめを防止するということのほうがもっと大事なことであって、そのためにはいじめに走らないように、学校そのものが楽しい、毎日が楽

しい、子どもたち一人一人がそう思えば多分いじめようなんていう気が起こりにくいでしょうから、そのところは本当に大事だろうと思います。

村川教育長　　今の話は非常に重要だなと思ってしまして、この方針を今回作って出したときに、これだけを捉えてしまうというのもまた一つの問題だと思ってまして、いろんな事象なり活動の結果が、結果としていじめに整理されたときにこれがどう処理していくかということで、本来はこれはあくまでも一分野というか、一つの整理の仕方での仕組みになっていますので、本当は広いいろんな仕組みの中で活用していかないといけないと思っています。

先ほどの一つ前のテーマも縦横の連携ということもありますけども、こういう一つの環境をつくっていくことによって、子どもへの向かい方というか、子どもがどういう活動をしているか、あるいは悩んでいるかとか、そういう子どもとの関わりが一つの仕組みでいろいろ深まっていくと思うんです。その中でやっぱりこの子は楽しくできているか、あるいは悩んでいるかとか、そういう日頃の子どもたちの活動の中から把握したり汲み取って行って、これはいじめに向かっているなとか、そういうような段階的に把握していくだけの感覚を大人自身あるいは先生とかが磨かれていく必要があるんだろうなと思います。ただ、専門的にはこうやって整理するんですけど、やっぱりそれはあくまでも一分野の整備の仕方であって、全体的な子どもにどう関わっていくかということは、改めて自分自身で捉えながら、これを一つの仕組みとして捉えてもらいたいなと思います。

中野委員　　やはり未然に防ぐということが大事で、例えば学校教育の中にも盛り込むとか、家庭教育についてもいじめに対して子どもと親としっかり話をする場をつくると、それは学校発信でもいいと思うんですけど、そういうことが大事だと思うんです。やはりそういうことを重ねないと、結局学校の勉強が楽しくても友達関係で傷付いてしまって、学校に行くのが嫌になったりとかっていうことがあると思いますので、そこを例えば1時間なり2時間なり、年に何回やっても時間が取れるようであればいいと思うんですが、そういった活動の中でいじめに対して子どもたちそれぞれに考えてもらって、それを持ち帰って再度家でも話をきちんとする、そういった環境をどんどんつくって行って、いじめが1つでも2つでも無いようなことをやっぱり全体で取り組むということが大事なんだろうなというふうに思います。

永田委員　　いじめはいけないというのは誰も分かっているんです。いじめる子もいじめられる子も親も全ていじめはいけないと分かっているんです。どうしていけないかっていう辺り、いじめというのは一人の人間として認

められてなかったりとか、一人の人間としてどう生きるべきかというその人の生き方を否定していると思うんです。それは大人の世界でもいまだにありますし、それから人間が生活している中では必ずあると思うんです。無いことはないと思うんです。人間の心の中には人を自分より見下すことによって自分が優越感を感じたりとか、それを出すか出さないかの問題であって、絶対に人の心の中には「ほかの人よりは」っていう気持ちはあると思うんです。だけどその気持ちをやっぱり人間は人それぞれであって、いろんな考え方があるしいろんな人がいるんだけど、それを認めていかないといけないという教育をやっぱり小さい時から、今言われたように家庭の中でしていかないといけないし、学校の中でも一人の人間は大切な人間で命なんだということを、道徳のいじめの時間だけで取り上げるのではなくて、全ての生活の中で大人も子どもも考えていけるような土壌づくりというか、そういうものをみんなが取り組んでいけば少しは無くなっていくだろうし、いじめられる子ども、いじめる子ども、やっぱりいろいろ心に問題があるんじゃないかなということを常に考えているんですけど、学校では一人の対応だけに任せるんじゃないなくて、組織的に複数で体制を組んで取り組んで、常にあつたらすぐ先生が動くとか、やっぱり益田市全体でいじめはいけない、もちろんいいんだけど、知ってはいるんだけど一人一人を大切にしていって、誰もが大切なんだという考えをしていけたらと思います。難しいですけど、そこへ一歩一歩行く方法が、こうして取り組むことによって広がっていくし、やっていくべきことかなと思います。

先ほどの話もですけど、こうして話し合いをする人はよく分かっているんですよ。分からないという人が、先ほど水上委員さんも言われましたが、そこへどう発信していくかということをしないと、市の職員は知っている、先生方も知っている、公民館に関わる方も知っているかもしれないけど、そこに足を向けない人もいるわけで、そういう人たちをどう気持ちを変えていかせるかというところを考えていかないと、裾野が広がらないかなという気がします。

山本市長

このいじめ防止基本方針については、昨年度のこの益田市総合教育会議の中で基本方針を作っていこうという方針を決めて時間をかけて作ったわけですが、そういう中で先ほど申し上げたような横浜の事案があつたりして、国でも若干見直しをかけています。パブリックコメントも頂いたということもありますので、年明けの29年3月には確定させていきたいと思いますが、今日頂きましたご意見を踏まえて、重大事態に至るまでの早期発見であつたり、あるいはいじめそのものの防止のこと、それからそのためには学校だけじゃなくて家庭だとか地域もしっかりと認識していただくことが必要だといったこともなるべく盛り込

むような形で、充実したものを作っていきたいと思います。

4 その他

山本市長 それではこれまでのところでこれをもう少し言っておきたいということがありましたら承りたいと思いますが、いかがでしょうか。

渡辺委員 今日こうして2つの議事を協議させてもらって、私は昔ドイツに言ったことがあるんです。その時に聞いた話がつい頭の中に浮かんでしまいました。ドイツでは田舎の町から、自分の住んでいる町をよくするためにと思って学校に行って、その学校は田舎には無いから都会の学校に行くんだけど、そこで学ぶのは自分たちが生まれた地域に帰っていくために自分の地域の中で町を良くするために大学に行って学んでくる、そして学んできた知識を田舎に帰って、そして発展するために努力するという、そういう思いで学校に行くんだと、大半の田舎の子どもたちはみんな田舎に帰ってくるということをお話されたのをつい思い出しました。益田市が本当に今求めているのはそういう町なんだと、みんなそうして都会に学びに行かせたら、その一部は益田に帰ってきて、ますます益田市を発展させるために努力をする、貢献する、そういう人間を育てるんだと、そういう構想の中にこれがあるんだというような位置づけを今日感じました。とてもうれしく思います。

山本市長 ありがとうございます。その他この機会に何かありますでしょうか。

永田委員 長い間、4年間大変お世話になりました。いろいろなことを勉強させていただきました。この経験を今後の人生に、どう生かせるか分かりませんが、健やかに安心して生きていけたらと思います。本当に4年間お世話になりました。ありがとうございました。

山本市長 永田委員さんにおかれましては、教育委員としての任期が間もなく満了いたしますけども、この総合教育会議というのは任期の途中に始まったわけでありまして、この会議におきましても積極的に様々なご意見を頂きましてありがとうございました。

島田課長 以上をもちまして益田市総合教育会議を閉じさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

終了時間 16時00分